

「活躍する地域の代協」

都道府県代協レポートリレー

第41回

栃木県代協

何事にも真摯に取り組む熱い仲間  
保険を身近に感じる活動を推進

栃木県代協は穏やかで思いやりがあり、何事にも真摯に取り組む熱い仲間によって運営されています。この思いやりと熱い気持ちから誕生したのが栃木県代協主催の献血活動です。20年前の2月に会員の一人が献血を行った際に「献血ありがとうございます。冬は献血者が少なく血液が不足する時期なので助かりました」と看護師に言われたことがきっかけでスタートしました。以来、毎年冬には宇都宮市内の赤十字献血センターや足利市内のホームセーター駐車場で開催し多くの協力者様によって社会貢献活動を進めています。

もう一つの社会貢献活動は「落語を楽しむ会」の開催です。高齢化が進む日本で医療の発達や施設の増設だけに目を向けるのではなく、予防の観点から地域貢献を図ることを目的としています。病は気からという言葉があるように「笑いで

元気に楽しんでもらえる活動」という考えからスタートしました。今では高齢者だけでなく障がいのある方等もご来場いただき毎年、明るい笑顔を見ることができています。一方、栃木県では2015年9月と2019年9月に一級河川の決壊という広範囲の水災被害を受け、多くの方が被災しました。その際、当協会会員が被災者と真摯に向き合い、生活の再建に向け全力で取組まを行いました。この教訓を生かし、企業に対してはBCP策定の必要性を呼びかけております。また実際に被災した時を想定して被災時の非常食の試食や簡易トイレなどを実際に体験していただく活動も行っております。県内には宇都宮・小山・両毛の三支部があり、活動も活発でチームワークが良く、地域の防災や交通安全の啓蒙活動を積極的に行っております。その活動の

一つが日本損害保険協会の実施する「ぼうさい探検隊」の参加推進です。今年度も3つの団体が参加し、地域の小学生がチームを作り日頃から慣れ親しんだ町を歩きながら危険箇所をマップに記入する活動を行いました。3月10日に日本代協が開催した金融庁保険課長との意見交換会では、本県会長の村田泰章が全会員に対し質問事項や保険会社との連携で取り組む施策、顧客本位の業務運営で実践に向けた取組みや工夫している点等の質問や意見を集約し数多くの発表を行いました。人材の育成も重要です。プロの保険募集人としてお客様の良き相談相手になるために日本損害保険協会による「損害保険トータルプランナー試験」の資格取得の普及に力を入れています。選ばれる代理店の付加価値として保険商品知識のみに偏ることなく真のお客さま本位の業務運営を実践し一人ひとりが真剣に考え取り組み、価値や質の向上を常に追求すること、私たちの活動がお客様にとって保険を身近に感じて頂ければと思います。



献血



落語を楽しむ会

選ばれる代理店の付加価値として保険商品知識のみに偏ることなく真のお客さま本位の業務運営を実践し一人ひとりが真剣に考え取り組み、価値や質の向上を常に追求すること、私たちの活動がお客様にとって保険を身近に感じて頂ければと思います。